

3 ギャップタームを活用できるか

遊んで終わるだけか？

3月目の論点は、3月に高校を卒業してから9月に入学するための期間、すなわちギャップタームには意義があるのかどうかという点である。

「中間まとめ」においては、入学予定者がギャップタームを積極的に活用することを意識して入試時期をずらすようにするとのことであった。この空白期間に関しては、有効活用できるといふ立場とできないという立場が明確に分かれる。

ギャップタームにできることは右の表にまとめた。インターン

ボランティアや企業などへのインターンシップ、留学など「勉強」ではないさまざまな体験ができるので、多様な人材の育成にとても好ましいであろう。特にインターンについては、就職活動期のインターンとは違って、企業とのつながりがない分社会的な視点から見て、インターン

「採用選考に当たって海外留学などの多様な体験が必ずしも十分に評価されていくとは限らない」という点である。

「中間まとめ」においては「新卒の春季一括採用、採用活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている」という点も指摘されている。

「大学教育の充実の隘路として日本固有の問題である、企業採用活動との関係性について、これを社会全体で考え直す契機となることを期待したい」と述べられている。就活活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている。

「採用選考に当たって海外留学などの多様な体験が必ずしも十分に評価されていくとは限らない」という点である。

「中間まとめ」においては「新卒の春季一括採用、採用活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている」という点も指摘されている。

「大学教育の充実の隘路として日本固有の問題である、企業採用活動との関係性について、これを社会全体で考え直す契機となることを期待したい」と述べられている。就活活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている。

「採用選考に当たって海外留学などの多様な体験が必ずしも十分に評価されていくとは限らない」という点である。

「中間まとめ」においては「新卒の春季一括採用、採用活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている」という点も指摘されている。

「大学教育の充実の隘路として日本固有の問題である、企業採用活動との関係性について、これを社会全体で考え直す契機となることを期待したい」と述べられている。就活活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている。

「採用選考に当たって海外留学などの多様な体験が必ずしも十分に評価されていくとは限らない」という点である。

「中間まとめ」においては「新卒の春季一括採用、採用活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている」という点も指摘されている。

大学が介入するの

そのほかにも、大学での専攻を決める期間に使ったり、実際にゼミの授業や学んだり、より高度な学びに向けた基礎学力レベルをそろえたりするなどの勉強の期間として使うことも出てくる。学費や生活費があるいは社会体験のためにアルバイトをするのもできる。

勉強や留学、ボランティアなどに限らず、大学がコースを組んで用事やボランティアを義務付けたり、活動によっては単位を認めたりすることもできるかもしれない。また、入学予定者はどこにも属していないことになってしまふので、保険を用意するという意見もある。

400億円の労働価値

なお、一般社団法人日本ギャップイヤー推進機構協会の試算によると、大学1年生の1割(約7万人)を9月入学にするか「就活」を協定で4ヶ月間短縮して福祉ボランティアと二次産業でのインターンを各3ヶ月

月間行くと、四百億円の労働価値が見込まれるという。

本場の「ギャップイヤー」

ちなみに、英国にはもともギャップイヤーという制度があり、高校が終る6月から、大学が始まる10月までの16ヶ月間あるいは社会体験のためにアルバイトをするのもできる。勉強や留学、ボランティアなどに限らず、大学がコースを組んで用事やボランティアを義務付けたり、活動によっては単位を認めたりすることもできるかもしれない。また、入学予定者はどこにも属していないことになってしまふので、保険を用意するという意見もある。

中退が減少する?

そのほかにも、中央教育審議会生涯教育科会(2004年)によれば、英国でギャップタームを利用する学生は、大半を中退する割合が3~4%と少ない(平均は20%)というデータもある。また、大学卒業後に就職しても比較的早く退職する若者が多いとされている中、教育と就職のギャップを埋めるための期間として、一方、こうしたギャップタームが生じることで、

格差を反映する

また、②の点については、大学が入学までの期間について強制的なサポートが出来るようにしたい。実際に、A O入試や推薦入試で秋に受験が取得した学生は、免許の取得やアルバイトなど半年を費やす例が多い。

学習意欲の低下

また、半年間の学習が狭くなっていったら、入学時の学力や学習意欲の低下という問題が生じる。また、経済的理由からアルバイトをして過ごすしかない学生もいるであろう。

国際教養の大の取り

秋田県にある公立国際教養大は4月入学と並行して、秋学期に「ギャップイヤー」を採用している(国際教養大の呼称にしては「ギャップイヤー」と表記する)。9月入学の場合は

4 就活は変わるか

「就活」変革を期待

「採用選考に当たって海外留学などの多様な体験が必ずしも十分に評価されていくとは限らない」という点である。

「中間まとめ」においては「新卒の春季一括採用、採用活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている」という点も指摘されている。

「大学教育の充実の隘路として日本固有の問題である、企業採用活動との関係性について、これを社会全体で考え直す契機となることを期待したい」と述べられている。就活活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている。

「採用選考に当たって海外留学などの多様な体験が必ずしも十分に評価されていくとは限らない」という点である。

「中間まとめ」においては「新卒の春季一括採用、採用活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている」という点も指摘されている。

「大学教育の充実の隘路として日本固有の問題である、企業採用活動との関係性について、これを社会全体で考え直す契機となることを期待したい」と述べられている。就活活動の早期化・長期化、求める人材像や評価基準の曖昧さなどが、大学教育の充実、海外留学の促進による人材育成を図る上での課題や隘路となっている。

ギャップタームにできること

- ・留学
- ・アルバイト
- ・ボランティア
- ・インターンなど職業体験
- ・大学で学ぶための基礎学力の養成
- ・じっくりと専攻を決める
- ・免許取得
- ・資格取得
- ・遊ぶ
- ・スポーツ(大学のサークルなどに事前に入る)

※ギャップタームという語は、日本において秋入学までの期間が半年であるために東大の資料によって用いられた言葉である。期間の長さに関わらず、ギャップイヤーという呼称が一般的になってきているが、本稿では東大の呼称を採用した。

各界の動向

経済界

経団連の米倉昌会長は1月25日の会見で、東大の秋入学移行について「経済界としても歓迎したい」と述べ、ギャップタームの活動に関しても採択時に考慮する方針を示した。また、採用時期についても見直し考えを示した。

政府

野田首相は「グローバル人材の育成の観点からすると、大卒の年齢を遅くしてはならない」と述べ、各府省庁に「大卒の年齢を遅くしてはならない」という方針を示すよう指示した。

他大学

12日付の朝日新聞によると、秋入学への全面移行について全国の174大学の学長アンケートをしたところ、回答した167人のうち96.0%の46人が「取りあえず」導入を検討する意向を示した。また、京大は「導入を検討している」と述べた。

各国の学年と会計年度

国名	学年	会計年度の始期
アメリカ合衆国	9月~6月	7月
イギリス	9月~7月	4月
フランス	9月~7月	1月
ドイツ	8月~7月	1月
イタリア	9月~6月	1月
デンマーク	8月~6月	1月
ロシア	9月~6月	1月
オーストラリア	1月~12月	7月
カナダ	9月~6月	4月
メキシコ	9月~7月	1月
ブラジル	3月~12月	1月
インド	4月~3月	4月
中国	9月~7月	1月
韓国	3月~2月	1月

出典：「UNESCO Statistical YearBook 1998」※「中間まとめ」より作成

参考

国際教養の大の取り

3月に試験があり、入試において面接の配点がかなり高い。合格すると、入学予定者はギャップイヤーの過ごし方を担当教員に具体的に説明、プレゼンテーションする。入学時には活動報告書を出し、それが単位として認められる。大学日本には実際に農家のインターンを行った学生の体験談が載っている。

【記者の視点】

秋入学に関する記事を調べていくうちに、入学時期を早めることはきつくないか、という疑問がわいてきた。これは意味が持たないのではないかと思うようになった。

これまで見てきた通り、その多くは、大学が講義を受けていて面白くない、むしろ大学教育の大幅な改善に向けた議論のきっかけにすべきだ、という意見が多い。しかし、このように多くの学生が共有している認識である。そのうえ、京大において他学部の専門科目を履修しようとした時に、科目によっては単位を認められないことも問題である。そのように、日本語での学習環境への不満もある中、国際化を目指した大学改革が可能であるのか、懐疑的にならざるを得ない。

会見資料などを読む限り、東大の濱田総長は秋入学への思い入れが強いようである。第一の論点として取り上げた現役東大教員の伊東乾氏も指摘するように、学長は学内での意見調整もままならないままに秋入学移行の構想を発表することで、秋入学移行を「既成事実」にした。このやり方はなかなか強引である。それでも記者は東大の

また、半年間の学習が狭くなっていったら、入学時の学力や学習意欲の低下という問題が生じる。また、経済的理由からアルバイトをして過ごすしかない学生もいるであろう。

10日付の読売新聞の記事によると、医師国家試験はかつては年一回実施されていたが、医療の高度化の中で試験の質を維持するために年一回の実施になった。東大は年一回実施を固く求める方針だが、厚

生労働省の関係者は試験の質の維持の観点から年一回の実施に難色を示している。また、1日に京都新聞が発表した京大の12大学へのアンケートによると、同社と立命館大も秋入学を検討する方針である。すでに一部で9月入学を導入している立命館大は一定割合の学生の秋入学については賛成している。

定期購読 募集中

●購読料 4年間12,000円／年間3,000円 月2回(1日・16日)発行

●お申し込みは／TEL:075-761-2054 FAX:075-761-6095

住所変更などの際には、上記連絡先までご連絡ください